

ワンポイントQ&A (その2)



Q 参加者の姿を見ることが大切だと聞いたのですが、どのようなことを意識したらよいでしょうか？

A ワークに参加される方には、積極的に魅力的な地域づくりを進めたいという人が多いです。一方で、仕方なしに参加される方もいます。その他、一回の説明では理解が難しい方、話すのはいいが書くことは苦手な方、自分の思いを伝えるのが苦手な人、自分の考えをひたすら話したい人、さまざまな参加者が予想されます。そうした参加者の姿を想像し、誰もが気持ちよくワークに参加できるような説明、指示や関わりを準備しておくことも大切です。

仮に作業をしていない姿があっても、やる気がないとは限りません。指示がわからない、問われたことを一生懸命考えている、他に気になることがある等さまざまな要因が考えられます。

想像力を働かせ、参加者の立場に立った対応を心がけたいものです。



Q ファシリテートが上手になる秘訣はありますか？

A まずは、上手な人の言動を観察し、真似ることから始めるのがよいかもしれません。自分ならどうするかという問いをもちながら、ワークに参加することはとても効果的です。

ただし、ファシリテートの上達には近道はありません。大事なことは場数を踏むこと。これに尽きるといっても過言ではないでしょう。

そうは言っても、実際にワークを行う機会を作ることは容易ではありません。

慣れない間は、事前にワークを想定し、参加者の言動をイメージすることで、準備を進めていくといいでしょう。

「準備8割、本番2割」と言われます。当日の流れや参加者の言動等、さまざまなパターンを想像し、対応策を練っておくことは、準備の中でも特に大切な要素といえるでしょう。



Q 参加者に何かしら考えてもらう際には、必ず問いかける場面がでてきます。問いかけるときに気をつけることはありますか？

A こう聞けば、どんな意見が出てくるだろうという想像が、よりよい問いの設定には欠かせません。

例えば、「地域資源は活かせるか」という問いと、「地域資源を活かす方法は何でしょう」という問いでは、答えの具体性に差が出てきます。さらに、「地域資源を活かすために、あなたにできることは何ですか」となると、より自分事となり、次の動きにつながる期待感が増していきます。

ワークに不慣れな人にも答えられるか、参加者の経験から答えられるか、不快な思いをすることはないだろうかといった参加者の意欲面からの視点や、この問いで気づきを促すことができるか、ねらいに迫ることができるか、動きにつながるかといった学びの視点も大切にして、問いを工夫してください。

